

令和元年度 第3回木更津市子ども・子育て会議

議事録

日時：令和元年11月8日（金）午後2時00分～午後3時14分

場所：市民総合福祉会館

次第

1. 開会

2. 議題

（１）①金田幼稚園の利用定員について及び認定こども園移行について

②ふくた保育園及び認定こども園木更津みらい利用定員について

（２）木更津市子ども・子育て支援事業計画（第2期）素案の修正について

3. 閉会

4. その他

【議事内容】

1. 開会

事務局

○ただ今から令和元年度 第3回木更津市子ども・子育て会議を開会いたします。
まずお手元の資料の確認をさせていただきます。本日の資料は、本日配布した

- ・会議次第
- ・委員名簿
- ・進捗管理シート
- ・概要版
- ・計画素案の差し替え分
- ・木更津市内保育園定員一覧

加えて事前に配付してございます、

- ・『木更津市子ども・子育て支援事業計画（第2期）素案』
- ・特定教育保育施設の利用定員について及び幼稚園の認定こども園移行についての8点でございます。

その他の資料として

- ・第15回木更津こどもまつりの写真集
- ・第16回木更津こどもまつりのパンフレット

を一緒に配布いたします。不足の資料がございましたらお申し出ください。

それでは議事に移ります。

附属機関設置条例第6条の規定により、議長は会長が務めることとなっておりますので平野会長よろしくお願いいたします。

2. 議題

議題（1）①金田幼稚園の利用定員について及び認定こども園移行について

平野会長

○皆様こんにちは。ただ今お話の通り会長が議長ということでございますので、円滑な議事進行にご協力をよろしくお願いいたします。

本日の審議会の出席委員について事務局より報告をお願いいたします。

事務局

○本日の審議会の出席委員は12名、欠席者4名でございます。

平野会長

○過半数を超えておりますので本日の会議は成立いたします。

本審議会は木更津市審議会等の会議の公開に関する条例における審議会等にあたることから同条例第3条の規定により原則公開となりますが、よろしいでしょうか。
(異議なし)

皆様方からご承認いただきましたので、公開いたします。

ただ今から令和元年度第3回 木更津市子ども・子育て会議を開会いたします。

会議録については同条例第9条の規定により個人情報等の非開示情報に留意して公開することいたします。なお会議録の調整方法については要点記録とし、発言にかかる委員名は記載する取扱いいたします。

傍聴人はおりますか。

事務局

○おりません。

2. 議題

議題(1)①金田幼稚園の利用定員について及び認定こども園移行及び改築について
②ふくた保育園及び認定こども園木更津みらい利用定員について

平野会長

○傍聴人は現時点ではおられません。それではさっそく議題の(1)の①「金田幼稚園の利用定員について及び認定こども園移行及び改築について」と②「ふくた保育園及び認定こども園木更津みらい利用定員について」事務局から説明願います。

事務局

○(資料に基づき説明)

平野会長

○ただ今の説明について質問やご意見等ございましたら挙手をお願いいたします。
まだ議題がございますので意見がないようでしたら議題2に移ります。

議題(2)木更津市子ども・子育て支援事業計画(第2期)素案の修正について

平野会長

○「(2) 子ども・子育て支援事業計画(第2期) 素案の修正について」、事務局より説明をお願いいたします。

事務局

○(資料に基づいて説明)

平野会長

○ありがとうございました。ただ今の事務局からの説明について、質問や意見等ございましたらお願いいたします。今の説明は修正であり、委員の皆様から頂いたご意見に対する説明もございました。これらについて何かご意見がございましたらご発言ください。

宮崎委員

○金田に定員150名の保育所が新しくできると、その影響は金田の方々がお受けになると受けとめておりますが、他の保育園に影響は出ないのかという話もございします。何かご検討はされておりますか。

事務局

○少子化は進んでいるものの幼児教育保育無償化とも併せ、今後木更津市内の保育需要は少し増加してくるのではないかと認識はしております。現在入園案内をしておりますが、中郷保育園・金田保育園も含めてかなり入園希望が出てくるようでございます。そのような状況の中、一応重ならない形でご希望が上がるのではないかと現時点では認識しております。ただ民間保育園については希望制をとっておりますので、例えば金田が定員を満たした場合第2希望の園に入園いただくことになっております。そのような意味で定員の枠を広げることにはかなりの意味があると考えております。

平野会長

○宮崎委員はよろしいですか。

宮崎委員

○実施してみないとわかりませんが、今中郷に子どもを預けている方々の中で、東京湾を超えて通勤されている方がおられるとします。保育所の送迎にかかる時間は短いほうがいいので職場から近い保育所がいいと考えた場合、保育園にこだわらなければ金田を選ばれる場合もありうるということです。今、お勤めの方々の勤務地をチェックし、東京湾を超えて通勤されている方は金田へ行くことも想定しておいていただきたいです。

事務局

○確認した上で適切に対応してまいります。

中郷保育園は、木更津市民が袖ヶ浦方面へお勤めの際に通勤経路であるところが魅力だと考えております。現在通わせている保護者の方にもそのような傾向が多くみられると認識しております。しかし、今後どのような動きが予想されるのかについては勤務地をチェックし、適切に対応させていただきます。

平野会長

○宮崎委員はよろしいですか。その他に何かご質問やご意見がございましたらお願いいたします。

宮崎委員

○ファミサポの整備が遅れているという話を以前伺いました。それから1～2年経過しておりますがその後いかがですか。

事務局

○ファミリーサポートは会員相互の互助組織でございますので、当初は会員数を増やすことに重点を置いてまいりました。提供する方と依頼する方のマッチングによって適切なサービスが提供できるものと考えております。そのため翌日の依頼といった即応性に難があることもあり、ご指摘の通り伸び悩んでいる部分もございますが、現在受託業者である社会福祉協議会とも話し、実際の稼働件数を増やしていくべく取り組みを進めているところでございます。

平野会長

○ありがとうございます。

宮崎委員

○ファミサポの前身はゆりかもめの子育て支援ネットでした。この時は件数こそ少ないですがほぼ完ぺきに需要を満たしておりました。それが現在は利用者から不満が出ているという状況に疑問を感じます。マッチングする際にすれがあることは理屈として理解できますが、運営する側がもう少し力を入れてはいかがですか。力を入れれば納得できると思いますが、現在木更津のファミサポのいい評判は聞こえてきません。やはり木更津のファミサポがあれば大丈夫だということになっていただきたいです。ファミサポの主催者側にあと何ができるのかを考えていただきたいです。

事務局

○ご意見ありがとうございます。ファミリーサポートの2つの大きな特徴としてまずマッチングをすること、もう1つは提供する会員の方に24時間の研修を受けていただいて様々な知識を習得した上で活動していただくことがございます。そのため

提供会員になってはいただいたものの研修が終わるところまで至らないという課題も見えております。そのような課題をどのようにクリアするのかを検討しながら、今後さらに使いやすい制度になるように周知を進めてまいります。

平野会長

○ありがとうございます。

宮崎委員

○お願いします。

平野会長

○今日の会議で素案についてご審議いただき、この後採決の運びとなる重要な議題でございます。これまでご発言いただいているのは宮崎委員お一人ですので、白石委員から順次この素案についてご発言願います。またこの会議に先立ちご質問をいただいた委員もおられると思いますが、先ほど答弁がございました。これについても何かご意見がございましたらそれもあわせてご発言いただければ幸いです。

宮崎委員がファミサポ等について発言されましたが、白石委員はお仕事で関わっておられます。何かご意見ございますか。ほかの委員にも順次ご発言いただきます。

白石委員

○ファミサポの前身であった子育て支援ネットという仕事にずっとかかわっております。その中でニーズは確実にあると思っておりますが、宮崎委員からもお話があったように実際にファミサポがうまく稼働しているというお話は聞こえてきません。そして私は現場におりますので困っている側の方の意見は非常によく聞きます。なぜそれがうまくいかないのか疑問でございます。先ほどマッチングというお話もありましたが、私が関わっているときにも提供される会員の方の動ける時間が限られておりニーズのすべての時間を網羅するのがとても困難でした。そこが運営の難しさなのではないかと感じております。ただ、現場にいと最近「アウェイ育児」という言葉がはやり始めました。自分の生まれたところや関係したところではない場所で育児をする方を指すそうです。木更津市も自衛隊や大きな企業があるので転勤族の方が非常に多く、私共のセンターの利用者もほとんどが木更津市に縁もゆかりもない方です。そこで一番必要になるのは自分が困ったときに子育てを手伝ってくれるファミリーサポートセンターや、先ほどこの計画には載せられなかったとおっしゃっていた病児保育です。このニーズは必ず耳にします。これから保育園入園の願書受付が始まり、職場復帰が近づいてくるので、特に年明けごろからこの相談が多くなる時期です。ぜひそこに向けてファミサポの強化をお願いしたいです。

この計画から漏れてしまった病児保育についても、ぜひどこかの病院を説得してい

ただいて整備していただかないと不満が爆発するのではないかと心配しております。

平野会長

○ただ今のご意見について事務局から何かございますか。

事務局

○先ほどの回答と重複しますが、研修の問題やマッチングの問題があり、提供しても構わないという方の数の割になかなか実際に結び付くに至らない現状ではございますが、使いやすくてできるよう工夫すれば、少しでも応えられるニーズはあると思っておりますのでそこに向けて頑張っていきたいと思います。具体的ではないですがそのように考えております。

事務局

○病後児保育について答えさせていただきます。今白石委員がおっしゃられた通り、転入されている方からの木更津市の病児・病後児保育についての問い合わせが増えてきていると私共も感じております。今回の第2期の計画の中で、病児保育・病後児保育は削除したのではなく、当初近隣4市を含めた広域での対応も検討していく旨を載せておりましたが、木更津市の計画の中に近隣自治体を含めた計画を盛り込むには調整不足だったため載せることはできませんでした。しかし木更津市にも病児病後児保育のニーズがあることは認識しておりますので方向性としてはこの第2期の計画期間の中で実現したいと思っております。その実現方法の1つとして広域での取り組みも検討してまいります。

平野会長

○ありがとうございます。宮崎委員は今の説明に関連した発言ですか。

宮崎委員

○はい。私は病児病後児保育とファミサポを別々ものとは考えておりません。当面病児保育も病後児保育もできない、その代わりをするのがファミサポだと考えております。ファミサポで病後児を預かることは想定外だと最初から決めるのは発想が貧困です。病児保育は無理だとしても少なくとも病後児保育はできるはずですので、ファミサポで病後児を預かれる提供会員を探して養成することを重点項目にされてはいかがですか。あれもこれもやる必要はございません。病後児保育の代わりをファミサポで実施するように、対応できる方は13万人の人口の中のたった2人でも構いません。

事務局

○先ほど病児病後児保育についてのいろいろなお問い合わせがあると申し上げましたが、県外から転入された方からのものが多く、おそらく転入前の居住地で病児病後児保育を見る・利用する等を経験された上で木更津市はどうかというお問い合わせ

でございます。全国的にはファミリーサポートの中で受け入れている自治体もあるかもしれませんが、基本的には病児保育というカテゴリーの中で、例えば看護師の常駐や緊急時の医師の対応等の体制を整えることを保護者の方も望んでおられるものと思います。そのような体制づくりをしていかなければならないという認識がございます。ファミリーサポートとはその点の区分を明確にし、病児病後児保育の対応へのニーズがあると考えておりますので、そちらにもしっかり働きかけをして計画期間内に実現してまいります。

平野会長

〇ありがとうございました。それでは石渡委員よろしく申し上げます。

石渡委員

〇子ども・子育て支援事業計画については修正箇所も加わり、資料・内容が膨大でまだ内容が十分咀嚼できておりませんので、また自分なりに検討させていただき、気づいた点があればご相談させていただきます。

それから先ほど金田幼稚園が令和2年度から認定施設型給付を受ける幼稚園に、3年度からは幼稚園型の認定こども園に移行するとのお話がございました。私立幼稚園にとっても幼児教育保育の無償化という大きな流れの中で、第一段階として認定施設型給付を受ける幼稚園に、その後認定こども園にそれぞれ移行する園が増えてくるのではないかと考えております。そのような動向も踏まえて今後幼稚園業界としてもその流れの分析を行いながら各幼稚園が私学のまま残って教育としてやる・認定こども園に向かう等どういう方向に向かうのか、これから大きく分かれていく大変な時期ではないかと思っておりますので、協会としても検討しご報告いたします。

平野会長

〇今回この金田幼稚園の件とふくた保育園ならびに木更津みらいの利用定員変更が議題に挙がっておりますが、この事業計画の中で需要と供給のバランスをはかることがこの子ども・子育て会議のメインでございますので、ぜひ石渡委員の幼稚園協会で意向調査を行っていただきたいです。それから本日は3回目の子ども・子育て会議であり、第2期事業計画が策定できるとしばらくお休みとなります。偶然にも本日利用定員変更の議題が上がってきましたが、利用定員の変更は事業計画の変更にかかわります。例えば私学助成を受けている私学の幼稚園から新制度の施設型給付の幼稚園に変わる場合、特殊な例を除いて2,3号認定が設定されますので、事業計画の変更が求められます。次年度以降の定員変更がある場合はできれば9月末までに締め切りを設けていただきたいです。子ども・子育て会議の事業計画ですので間際になっての利用定員の変更は、変更手続きが必要でございます。それから施設型給付の場合市町村負担

金が発生しますので、おそらく当初予算に盛り込む必要があるのではないかと思います。そうしますと9月末の締め切りならまだ当初予算を編成中なので十分間に合います。少し要望として申し上げました。

それでは湯本委員はいかがですか。

湯本委員

○事業計画についてはまだ勉強中であり、意見を述べる状態ではないのが現状です。しかし会議への出席も3回目になり、周りのお母さんに木更津市の子育て支援策について話すことがあります。「知らなかった」という声をよく耳にしました。ファミサポも自分が提供会員になってもいいのかわかりません。ホームページを見て情報収集してみましたが、10年も住んでいるお母さんはわざわざホームページを見ません。一方で広報を見ているお母さんは多いです。赤ちゃん向けのお知らせがたくさん載っているのはうれしいのですが、小学校低学年頃のお子さんをお持ちの方が触れられるような情報が少ない気がしています。感覚的な意見になりますが以上です。

平野会長

○ありがとうございます。事務局お願いします。

事務局

○おっしゃる通りだと認識しております。市役所は周知・PRが一番苦手なところでございます。ただここ数年は渡辺市長から子育て支援に関しても積極的な情報発信をするように言われているところでございます。若いお母さん方は新聞を取られておらず広報が届かないご家庭もある一方でスマートフォンをよく使われておりますので、木更津市でつくった「らづナビ」を使い、デジタル化した情報発信をもっと積極的に行ってまいります。現在は保育園の入園受付をしておりますが、保護者の方に「らづナビ」のインストールの仕方等の書かれたチラシを配布しています。いろいろな媒体を使って情報を届けるために、皆様におかれましてはダウンロードしていろいろな情報を取得していただけるよう今後力を入れてまいります。

平野会長

○ありがとうございます。それではお隣の遠藤委員お願いします。

遠藤委員

○木更津市立わかば保育園の保護者の遠藤です。この計画を見る限り本当に保育園・幼稚園に通っている子どものことを考えていただいていることがよくわかる資料でありがたいと思っています。定員を増やしていくことについても、今は子ども・子育てと母親の仕事は切り離せない時代なのでとてもありがたいです。気になったことは、私自身もこの委員になってから他のお母さん方と話している中で、実は0歳や1歳から

保育園に入れたくなかったという方が多かったことです。私は幸運にも希望通り娘を年少から保育園に預けることができました。昔は同様に3歳から保育園に預ける方が多かったのですが、今は希望があっても2歳・3歳から入れるのはすごく難しい現状があり、待機児童の話を知ると0歳から申し込まないと入れないようです。本当に必要な枠はどの年齢のクラスなのかを見極めるべきです。本当に必要ではないのに0歳から預けることになる、0歳児は保育士1人で3人しか見られません。そこに手を取られると、本当に必要な3歳児の先生が確保できない問題が出てくると思います。難しいとは思いますが、本当に必要な年齢の調査を考えていただきたいです。

それから先日真舟小学校に入学前健診に行き、気づいたのですが、先ほど職場に近い保育園がいいと考えているお母さんがいらっしゃる話でしたが、やはり小学校へ入ると学区が決まっているので、せっかく3～4年間同じ保育園で過ごしたのに全然違う小学校へ行く子もいるので、我が家も例にもれず全然お友達がいない状況です。真舟小学校や金田小学校にはそういう子がとても増えております。人数が多いところに限って近くに幼稚園や保育園がない状況ですので、本当に必要な場所、本当に必要な年齢に必要な分を与えられることを目指していただきたいです。

平野会長

〇厳しいお話ではございますが、事務局お願いします。

事務局

〇ご意見ありがとうございます。まだしっかりした回答を持っていない部分もござい

ますが、今もっている情報の中でお答えさせていただきます。

まず待機児童を意識して0歳からの入園申し込みをされているお母さんの話は事実でございます。どうしても0歳から継続的に預けられる方を優先するため、1歳や2歳から預けることが難しい状況は、木更津市に限らずどこの自治体も同様だと聞いております。先ほど仰っておられましたが、3歳になると1人の保育士で見られる子どもの数が増える上に幼稚園という選択肢も出てまいります。そのため木更津市では0・1・2歳に待機児童が発生している状況でございます。その中でも保育が必要かどうかの優先事項はいろいろな形でみており、より保育の必要な方に保育園にご入園いただいております。保育の必要性がない方が0・1・2歳で入園していることはございませんが、様々な口コミの中でお母さま方にそのような傾向があることは認識しております。一方で0・1・2歳児を持つ若いお母さま方に働きに出たいというニーズが高まっている事も認識しておりますので、待機児童が発生している0・1・2歳児の受け皿を確保していきたいと考えております。そのためには施設整備と保育士の確保が必要です。どちらもハードルの高い課題ではございますが、今回保育の将来的

なニーズについてまとめましたので、2期計画の中でそれをまかなえるように進めてまいります。

平野会長

ありがとうございます。よろしいですか。

事務局

○保育園と居住地との関係性は、保育園の周りに住宅地が広がるのではなく住宅造成が始まってそこに人が増えますので、どうしてもマッチングしておりません。真舟小学校のように住宅造成が増え、そこに人が増えたために小学校を作ったという例は千葉県内の自治体でも少ない例でございます。ただ保育園はだんだん子どもが減っていく少子化を見据えた中では、どこにどこまで施設整備するのかに課題がございますので、しっかり状況や動向を見据える必要がございます。併せて小学校での学童保育の問題も待機児童と同様これから大きくなることが予想されますので、そちらへの対応も民間の事業所と連携しながら進めてまいります。

平野会長

○ありがとうございます。では高橋委員お願いいたします。

高橋委員

○先ほども出ておりましたが、情報発信の必要性を感じました。誰が見ても見やすいユニバーサルデザイン等も意識して、全然知らない方に伝えることを前提にした発信が必要です。私自身にもこの資料を見てもよくわからないものがございますので、できるだけわかりやすく、見て興味をそそるような工夫が必要だと感じました。それから私自身も中学校教員で、毎日「今日も無事に終わった」と実感いたしますが、より小さい子を預かる保育士や幼稚園教諭の確保は、きちんとできているのか気になります。0歳児は1人の保育士に3人まで等いろいろな規定があるようですが、資格や免許を持った人がそれだけいるのか心配です。中学生にもなると言葉で理解してくれますが、小さい子たちはそうはいかず、手もかかります。命を預かる部分での責任やプレッシャーがかかるので簡単になれる仕事ではございません。それでもニーズにこたえるにはその資格・免許を持った人が必要であることなどを考えながら進めるといいと感じました。

平野会長

○ありがとうございます。それでは引き続き松井委員お願いします。

松井委員

○私共は労働団体でございますのでその視点からお話させていただきます。今の時代は共働きが当たり前の時代で、子どもを預けて安心して働けることが大前提でございま

す。先ほどから0歳児等一番預けたい時点での保育が足りないと言われておられますが、私の働いている会社では企業で保育施設を運営しております。そこで働いている方を対象に子どもを預かるのですが、やはり預けたい子どもの年齢が同じです。預かるニーズがその年によって決まっているため、枠がない等の問題がございました。本日資料を見せていただいたところ、これから色々を進めていくとのことで、ぜひそのニーズを把握しながら進めていただきたいと思います。

それから保育士の確保については、保育士も含めて今、働く人たちの働き方の魅力をどこに置くのが大事になっておりますので、保育士の処遇にも力を入れながら保育サービスを提供できるように進めていくことも大事な視点であると感じました。

平野会長

○ありがとうございました。続きまして鈴木委員お願いいたします。

鈴木委員

○私も今回2回目の出席です。素案を見せていただき、木更津市の事業として素晴らしい子育ての支援制度ができていると感じております。まだ社協の役員になって日が浅いために詳しくはわからないのですが、個人的に木更津市の子ども会役員も担っております。素案にあるような体制ができ、小学生・中学生になったらたくさん子供会に入っている活動していったほしいです。

平野会長

○ありがとうございました。齋藤委員お願いします。

齋藤委員

○私も今回初めてでよく理解できていない部分も多いのですが、最近の世の中では私自身も含めて発達障害の児童についての知識が乏しいと感じます。学習障害や多動などの子どもが15人に1人の割合でいるように伺いますので、もう少しみんなが認知してそのような子が学校生活を送りやすいような形にしていくべきです。またそれに対する対応もスムーズではございません。何か手助けが欲しくても年度で替わっていくため、4月に申し出たことに対する対応が次年度になることもあります。実際にクラスでそのようなことが起こると大変だろうと想像します。もう少し迅速に対応できるようにするべきです。

平野会長

○ありがとうございました。ただ今の発言について事務局何かございますか。

事務局

○発達障害の件について、木更津市では平成30年度から木更津子育て世代包括支援センターを立ち上げ、その中に発達に関する相談窓口を1本化させています。今、相談

がどんどん寄せられていますので、以前より相談にたどり着きやすくなってきています。またスタッフには教員免許を持つ職員もおりますので、学校教育課との連携も進んできております。一般の方への広報の仕方はまだこれからの課題ですが、まずは相談に来ていただくことを目指して進めている最中ですので見守っていただければ幸いです。

平野会長

○ありがとうございます。それでは重城委員お願いします。

重城委員

○私は医師会から来ておりますので、病児保育の件では苦しい立場にあります。実際に以前宮崎さんからお話があり妻とも話しましたが、日常の診療で手いっぱいなのが現状です。うちは産科があるので24時間電話の対応をしています。今、幼稚園などでも子どもの具合が悪くなった時に、結果的に悪い状態になることへの不安が問題なのだと思います。そのために少し具合が悪くだけでも医療機関に行ってもらおうという流れになっており、その全部に対応するのはとても大変です。早退して家に帰らずにそのまま保育園にいても問題のない程度の微熱でも相談に来られます。しかし今の世の中の情勢から言えば保育園で対応することは実際には無理です。

先ほど出ていたファミサポですが、子どもを3人くらい育てたお母さん方はだいたい子どもを見れば危ないのか放っておいても大丈夫なのかはわかるのではないのでしょうか。看護師が必要と言っておりますが、医者から見れば子どもには子育て経験のない看護師よりもお母さんのほうがずっと安心感があります。小児医療に関して、病児保育を外していただいたことは、これから考えなくてはならないとは思っておりますが少しほっとしております。

私自身、自分の子育てにはほとんど関わりませんでしたが孫ができて幼稚園をどうするのかというときに、家の近くの幼稚園についてうちで働いている看護師に評判を尋ねると、前の日から並んでいるとのことでした。自分が早朝散歩をするときにもし並んでいたら並ぼうと思っていると案の定並んでいました。入園するのにあんなに苦労が必要なのかと実感しました。自分の幼少期は、幼稚園にはただ家から遊びに行き帰ってくるという感覚で過ごしていたので、今はとても大変だと感じています。医療については医師会と話をしていこうと思います。

平野会長

○ありがとうございました。それでは成田委員お願いします。

成田委員

○発達障害児の療育施設からきました。発達障害のお子さんはいかに早く見つけ、いか

に早く療育を始めるかがとても大切ですので市役所の方ととてもいい連携をさせていただいており、ありがたいと思っております。

療育施設を運営している中では先日、亀山ダムが緊急放流の判断を検討した際、市内の河川も増水している状況だったことがございました。うちの施設の特徴として幼稚園・保育園も併用している方を園まで迎えに行くことがありますが、川の増水のために閉園になっていた情報を知らずにいつもの時間にお迎えに行ったところ、初めて閉園を知らされたことがございました。本来ならばお母さまからうちの施設へ連絡いただければよかったのですが、災害時なのでいち早く情報が欲しかったのが正直なところです。先ほどのお話では携帯アプリで見られるとのことでしたが、情報が遅いというのが実感です。他市のホームページを見ると、道路の通行止め情報などがコンスタントに更新されていました。これから大雨や台風といった災害級の事態は増えてくると思いますので、市役所のホームページはいち早く更新していただきたいです。

平野会長

〇ありがとうございます。今年は特に台風10・15・19号と21号のハイブリッド低気圧等大雨の大災害が連続しました。千葉県は災害の少ない県だという油断もあったのかと反省もしておりますが、災害時の保育園の開園状況や保護者への引き渡し方法等今後の課題です。これについては市町村単位ではなく全国で考えるべきで、厚労省がガイドラインをきちんと示すべきです。今の政省令では、保育園は年間5日のみ休園できることになっています。台風や大地震、火山の噴火が起こっても基本的には6日以上は休園でないと定められております。このような非常に厳しい枠の中で我々は子ども・保護者・職員の命を守らなくてはいけないという社会的責任を持っております。今日の会議に直接関係はございませんが、そのようなことも本市として今後どうしていくのかを考える時期に来ているのではないかと思います。

それでは皆様方から一通りご意見いただいたものと認識しておりますが、これから第2期子ども・子育て支援事業計画の素案についてのご承認をいただくことになります。それに際して、何かご意見がございましたら今一度ご発言をお願いいたしますがいかがですか。

(意見なし)

それでは重要な案件でございますので、ご承認いただける方は挙手をお願いいたします。

(全員挙手)

出席委員全員の賛同を得てご承認いただきました。この後この素案は市議会を経てパブリックコメントに発出し、委員以外の市民の皆様からのご意見を頂戴しながら微調

整を行います。これにつきましては子ども・子育て会議の開催が大原則でございますが、微調整の範囲内であれば議長の私にご一任いただければありがたいです。その結果につきましては全委員の皆様にも必ずご報告をさせていただきます。この件につきましてご承認いただける方は挙手をお願いいたします。

(全員挙手)

ありがとうございます。市議会を経た後12月の下旬より1か月間、パブリックコメントに通されます。

3. 閉会

平野会長

○それでは2つの議題のすべての議案がご承認いただきました。令和元年度第3回木更津市子ども・子育て会議を終了いたします。事務局からこの後に何かございますか。

4. その他

事務局

○お手元に11月16日開催予定のこどもまつりの資料を配布させていただきました。ぜひ皆様ご来場いただければと思います。連絡事項は以上です。
先ほど議事の中にもありましたが今回の会議をもって12月下旬から1か月間のパブリックコメントを予定しております。パブリックコメントの状況を見て、第4回の会議開催を決定させていただきます。意見がなかった場合や軽微な修正のみであった場合は、この素案をもって計画決定とさせていただきます、その旨を文書にて皆様にご通知させていただく形をとらせていただきます。

平野会長

○ありがとうございました。はいどうぞ。

事務局

○今説明した通り、12月の下旬からパブリックコメントにかけますので、それまでにまた熟読いただきお気づきの点がありましたら事務局まで連絡ください。その意見による修正もまだ可能でございますのでご提案いただければと存じます。

平野会長

○委員からのご意見やご質問等に期日は設けますか。パブリックコメントに出す前に必要であれば修正してから出すのですね。

事務局

〇とりあえず今回ご承認いただきましたので、これをパブリックコメントにかけさせていただきます。そのためご意見はパブリックコメント中でも、パブリックコメントとして出していただいても構いません。パブリックコメントの最終日までというのが一般的でございます。

平野会長

〇わかりました。1月下旬までということですね。委員さんのご意見のほうが重いと思いますので、ぜひ委員としてご意見いただければと存じます。

それではこれで解散いたします。ありがとうございました。お疲れ様でございました。

(閉会)